

エレクトロニクス分野におけるシミュレーション技術の進展 論文特集の発行にあたって

エレクトロニクス分野におけるシミュレーション技術の進展論文特集編集委員会

委員長 橋本 修



近年、電磁波と隣接分野の複合シミュレーション技術（通信システム、デジタル信号伝送、機械/化学/熱などとのマルチフィジックス）、グリッドによる並列計算あるいはGPGPU（General Purpose Graphic Processing Unit）に代表されるハードウェアによる高速化技術、更には計算アルゴリズムの改良など、エレクトロニクス分野における解析技術の進展には目覚ましいものがある。シミュレーション技術は、独創的なアイデアを容易に検証し、付加価値の高い成果へと効率良く結実させるために重要な役割を果たしており、今後その重要性はますます高まっていくであろう。

本ソサイエティにおいて関心がもたれるシミュレーション技術は多種多様であるが、類似点も多いため、シミュレーション技術に軸足を置く研究者が一堂に会する機会を提供することができれば、我が国の研究開発のよりいっそうの発展に寄与できるものと期待される。このような背景から、平成23年度よりエレクトロニクスシミュレーション研究会が発足した。この研究会での情報交換・討論の成果に加え、更なる異分野の交流及び融合を目指し、和文論文誌において初めて特集を企画するに至った。

今回の本特集への投稿論文数は、論文6編、ショートノート5編であった。厳正な査読結果に基づき、編集委員が議論した結果、論文5編、ショートノート4編の採録となった。これに招待論文1編を加えた計10編が本特集に掲載されている。

最後に、本特集を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員各位、並びに事務局に深謝の意を表します。この特集が今後も継続的に実施され、技術立国日本の将来に資することを期待している。

（平成25年5月17日公開）

橋本 修（正員：フェロー） 昭51電通大・電気通信・応用電子卒。昭53同大大学院修士課程了。同年（株）東芝入社。昭56防衛庁入庁。昭61東工大大学院博士課程了。平3青学大助教授。平6～7イリノイ大客員研究員。平9青学大教授。工博。環境電磁工学、生体電磁工学、マイクロ波・ミリ波計測に関する研究に従事。平2防衛論文賞、平15エレクトロニクス実装学会論文賞、平18本会第9回エレクトロニクスソサイエティ賞等各受賞。主な著書に、「実践 FDTD時間領域差分法」（2006）、「高周波領域における材料定数測定法」（2003）、「電波吸収体の技術と応用」（2003）、「電波吸収体のはなし」（2001）等。電気学会（フェロー）、エレクトロニクス実装学会、日本建築学会、IEEE各会員。

エレクトロニクス分野におけるシミュレーション技術の進展論文特集編集委員会

委員長	橋本 修
幹事	藤代博記・平田晃正
委員	大久保 寛・池田奈美子・須原理彦・千葉英利 陳 春平・辻 寧英・日景 隆・藤本孝文